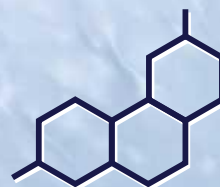




大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.
のびゆく力、未来へ

会社説明会および 2010年11月期第2四半期決算説明会資料

2010年7月2日



目次

- I. 2010年11月期第2四半期連結決算・・・ p.2
- II. 2010年11月期連結業績予想・・・ p.8
- III. 成長戦略・中期事業計画の状況・・・ p.21

I. 2010年11月期 第2四半期連結決算

業績概要(連結)

(百万円、%)

	09/5月	10/5月		
			増減	前年比
売上高	7,305	10,880	3,575	149%
営業利益	-261	1,050	1,311	—
経常利益	-236	1,048	1,284	—
当期純利益	-1,247	728	1,975	—

■売上高:前年比 149%

- 自動車・電子材料分野を中心に、市場が回復したことによる販売増。

■営業利益、経常利益:共に大幅増益。

- 売上高の回復とコスト削減の相乗効果による増益。

部門別売上高(連結)

(百万円、%)

	09/5月	10/5月		
			増減	前年比
売上高	7,305	10,880	3,575	149%
エステル化製品部門	3,611	5,713	2,102	158%
特殊化学品部門	3,313	4,592	1,279	139%
営業利益	-261	1,050	1,311	—

■エステル化製品部門・・・前年比 158%

- アクリル酸エステル 59%増。メタクリル酸エステル 73%増。

■特殊化学品部門・・・・前年比 139%

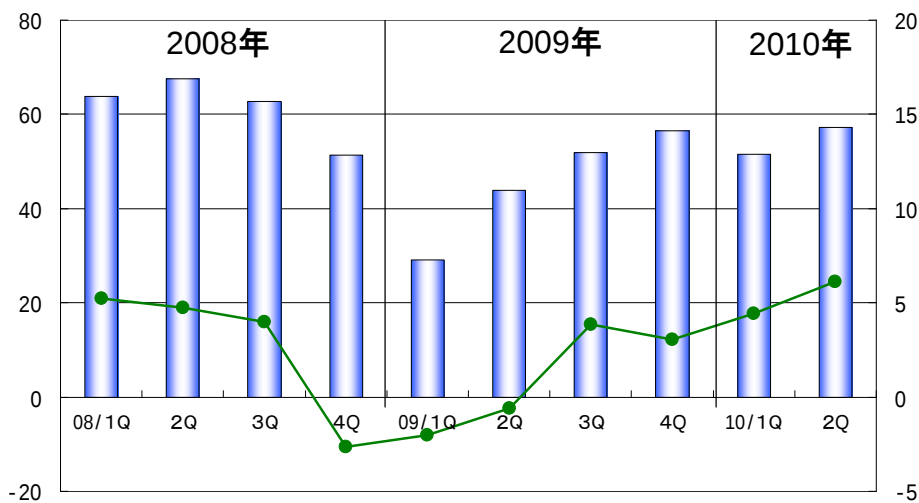
- 電子材料 57%増。化粧品 5%増。その他ファイン 42%増。医薬中間体 26%減。

売上高と営業利益の四半期推移

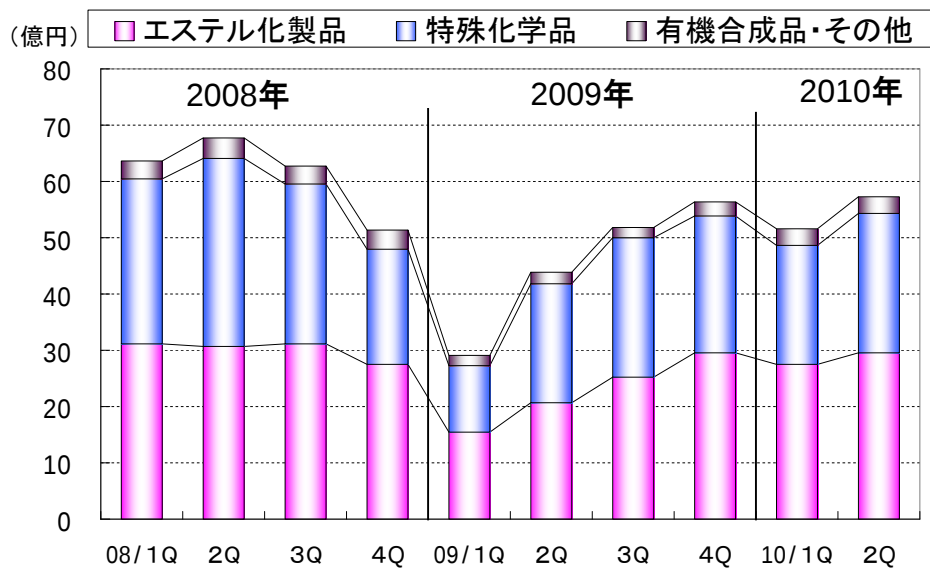
売上高
(億円)

売上高 営業利益

営業利益
(億円)



部門別売上高の四半期推移



2010年11月期第2四半期 業績のまとめ

1. 2009年2Qから回復基調継続
2. 電子材料関連分野が牽引

Ⅱ. 2010年11月期連結業績予想

今後の取り組み

1. 販売の強化
2. 生産性の改善による原価低減
3. 研究開発の強化

1. 販売の強化

1) エステル化製品

主力の**アクリル酸エステル**：

注力分野：**電子材料・自動車塗料向け**
海外市場への拡販

2) 特殊化学品

① 電子材料グループ

販売数量は回復傾向だが、価格下落による利益率低下

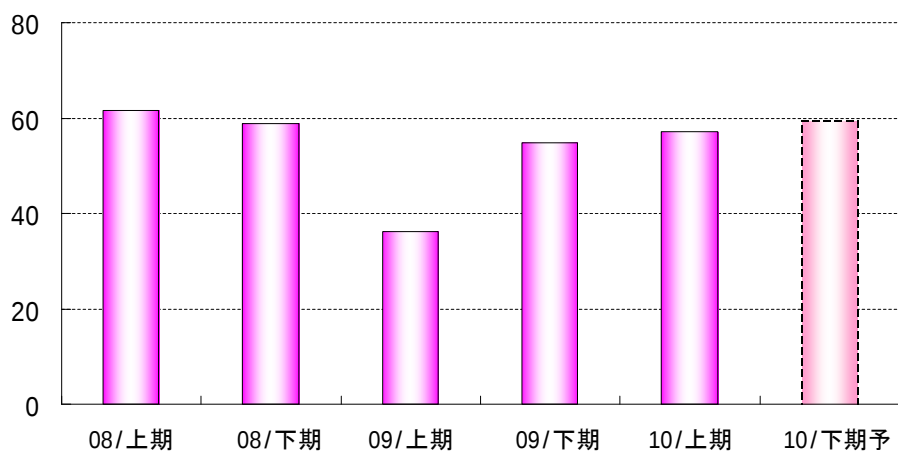
- ⇒ 現状シェア維持と新市場への拡販
- ⇒ 新規周辺材料の提案

② 化粧品ポリマー・医薬中間体・その他ファイングループ

- ・生体適合性材料の特性を活かした新規材料の提案
- ・新規医薬中間体の投入
- ・新規撥材の開発

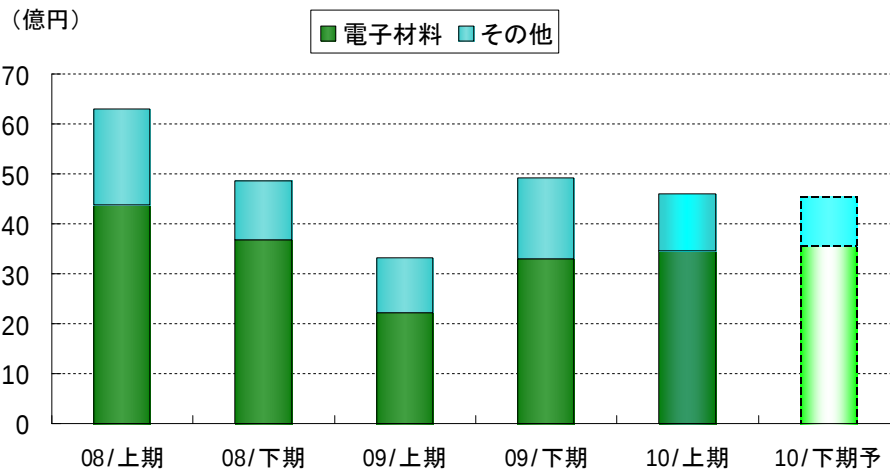
1. 販売の強化

（億円）
エステル化製品 半期売上高の推移



1. 販売の強化

特殊化学品 半期売上高の推移



2. 生産性の改善による原価低減

エステル化製品の金沢・酒田工場への移管・集約による生産合理化

1) 製品の合理化

不採算製品の見直しによる撤退

2) プロセスの合理化

生産性改善検討によるコスト削減



移管を進める大阪工場製造設備

⇒ 2014年を目処に大阪工場の生産品目の移管完了を目指す。

3. 研究開発の強化

積極的研究設備投資による迅速な顧客対応

- 1) 新研究棟を金沢工場に設置(2009年7月から):
工場密着型研究の強化による迅速な顧客対応
- 2) 新パイロットプラント設備を金沢工場に設置(2009年1月から):
①技術改良の促進 ②迅速な事業化



新研究棟



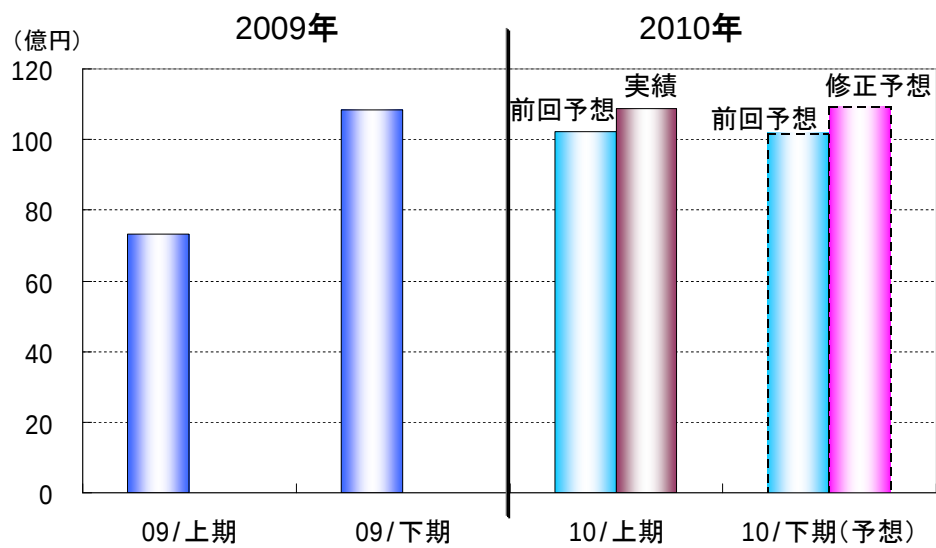
パイロットプラント設備

業績予想概要(連結)

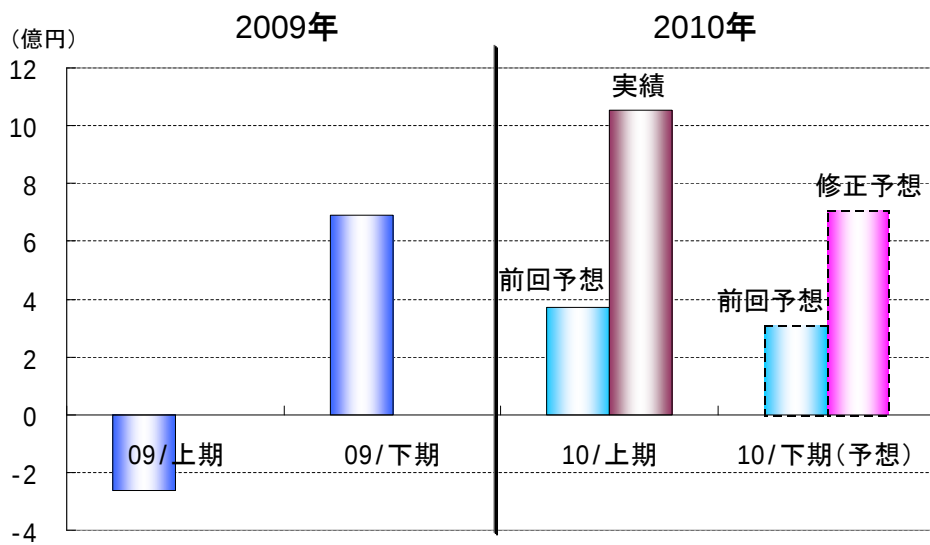
(百万円) <ご参考>

	09/11月	10/11月 予想			10/5月 (実績)
		前回	修正	増減	
売上高	17,584	20,398	21,815	1,417	10,880
営業利益	44	683	1,761	1,078	1,050
経常利益	55	684	1,754	1,070	1,048
当期純利益	-1,008	394	1,146	752	728

売上高の半期推移



営業利益の半期推移



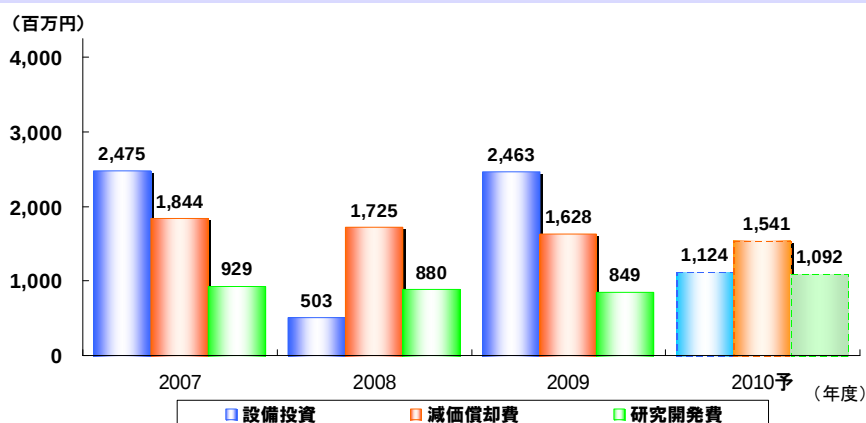
部門別売上高予想(連結)

	10/11月 通期(予想) (百万円、%)				<ご参考> 10/5月 (実績)
			増減	前年比	
エステル化製品部門	前回	10,714	1,631	118%	5,713
	修正	11,656	2,573	128%	
特殊化学品部門	前回	8,668	445	105%	4,592
	修正	9,128	905	111%	

■エステル化製品部門・・・電子材料及び自動車向け塗料原料の堅調な推移。

■特殊化学品部門 ……半導体関連材料の順調な回復。

設備投資・減価償却・研究開発費

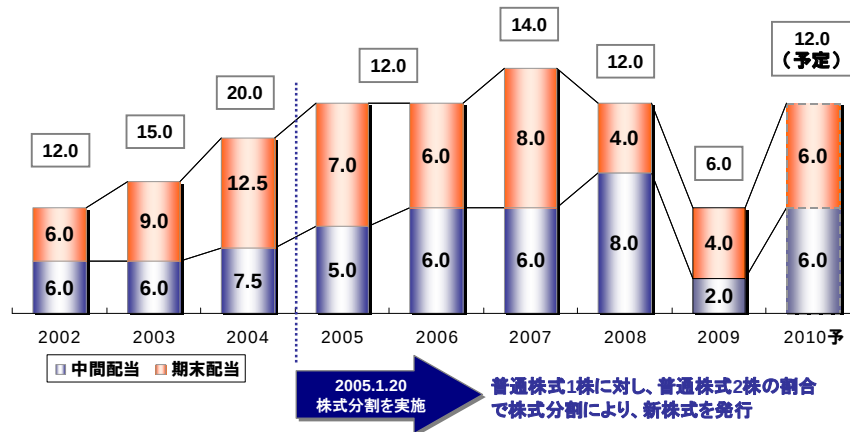


■主な設備投資案件(2010/11月期)

- 金沢工場 エステル化製品製造設備(移管対応)
- 金沢工場 研究パイロットプラント設備・分析機器等
- 酒田工場 福利厚生設備

1株当たり配当金(実績と予想)

2010年度 年間配当金 12円に修正
中間配当6円、期末配当6円



III. 成長戦略・ 中期事業計画の状況

成長戦略の基本軸

選択と集中による持続的な成長力の構築

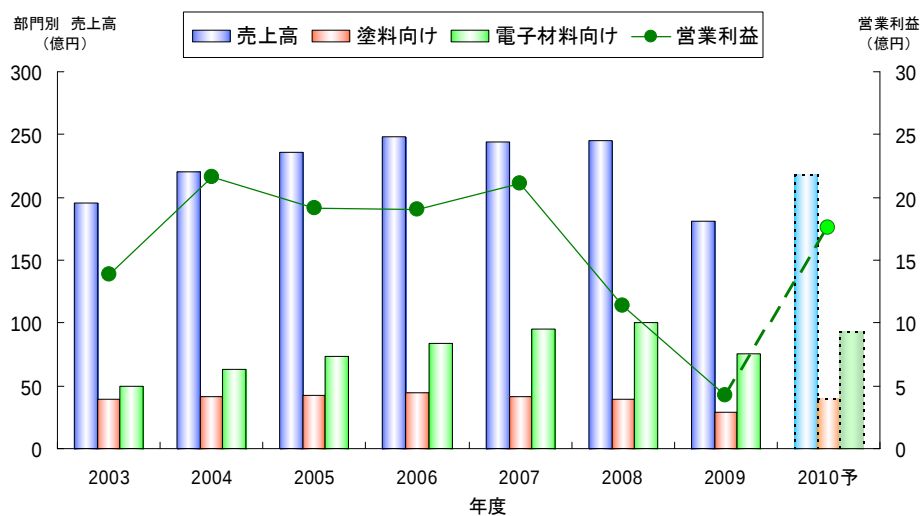
- I. 新製品開発のための技術力の強化
- II. 品質・コスト競争力の向上
- III. 顧客の拡大とマーケティングの充実

企業の社会的責任の実現と企業価値の向上

- IV. 安全・環境・コンプライアンスの重視
- V. コーポレートガバナンスの充実
- VI. 財務体質の強化

当社の現状

用途別売上高と連結営業利益の推移



アクリル酸エステル事業の展開

【外部環境】

各産業界の景気回復

【今 後】

基盤事業として強化

- コスト競争力強化
- 新規モノマー開発

UVインキ・コーティング・オプトエレクトロニクス材料・粘接着剤等幅広く展開

コスト競争力の強化と新製品開発

短 期

固定費の削減

プロセス改善
製造拠点の集約

顧客の拡大

海外の販売強化
アジア・新興市場

中長期

新製品の開発

顧客要望に応えた材料

- 光カチオン系モノマー(OXEシリーズ)
- 高感度用モノマー(V-1000シリーズ)
- 高希釈・低毒性モノマー(DOLシリーズ)

新規特殊モノマーの市場投入

＜新製品の紹介＞

特殊アクリレートモノマー3シリーズを開発

① V(ビスコート)-1000シリーズ

多官能で高感度・低収縮率

② DOLシリーズ

低皮膚刺激性の反応性希釈剤用

③ OXEシリーズ

2種類の異なる反応基を持ち加工性に優れる

電子材料事業の展開

【外部環境】

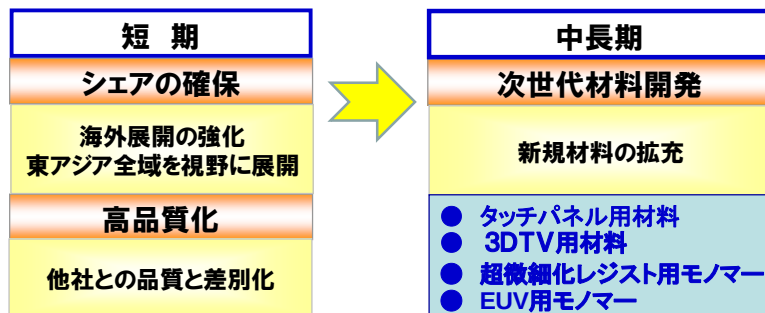
エレクトロニクス市場の変化

【今 後】

安定した高収益性の確保

● 量的拡大と次世代材料開発

液晶ディスプレイ・半導体分野を中心に継続した新規材料開発を展開



位相差フィルムの3DTVへの展開

光硬化型パターンニング位相差材料
「SIRシリーズ」の開発実用化



当社の光硬化技術による液晶パネル部材の新製品

液晶パネルの薄型化・低コスト化・3DTVに対応した
新規光硬化型位相差材料「SIRシリーズ」の開発

環境対応及び基盤技術

環境対応と基盤技術拡充への強化

・環境負荷低減技術

・基盤技術拡充

重点項目

技術的な視点

エネルギー・廃棄物量の削減
(廃油の燃料化設備)

公的研究機関との 共同研究による基礎技術拡充

- ・エステル化製品の製法
- ・新規製造技術
- ・生体適合材料
- ・表示材料

これらの開発

新規事業・新技術の創出

ターゲットとする新規事業

エネルギー分野

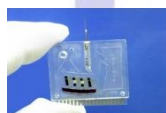
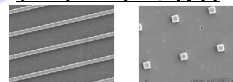
・太陽電池関連材料



メディカル分野

エレクトロニクス
分野

・次世代記録材料
・ナノインプリント材料



バイオチップ
・生体適合材料

研究体制の強化 次世代の中核事業の創出

- ・大学・外部研究機関との連携 コア技術の研鑽・新技術の習得
- ・プロジェクト制導入による新規分野への挑戦



大阪有機化学工業株式会社
OSAKA ORGANIC CHEMICAL INDUSTRY LTD.

のびゆく力、未来へ

本資料の予想数値等は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、本資料の内容と異なる場合があります。したがって、いかなる確約や保証を行うものではありません。

比較連結貸借対照表

(百万円)

項目	09/5月末	10/5月末	増減	備 考
資産合計	23,946	28,424	4,478	
流動資産	9,606	14,266	4,660	現金及び預金 受取手形・売掛金の増加
有形固定資産	11,231	9,890	△1,341	機械装置及び運搬具 建設仮勘定の減少
投資その他の資産	3,105	4,265	1,160	投資有価証券の増加
負債合計	6,075	9,058	2,983	
流動負債	4,360	5,746	1,386	支払手形及び買掛金の 増加
固定負債	1,714	3,311	1,597	長期借入金の増加
純資産合計	17,870	19,366	1,496	利益剰余金の増加
少数株主持分	162	160	△2	
負債純資産合計	23,946	28,424	4,478	

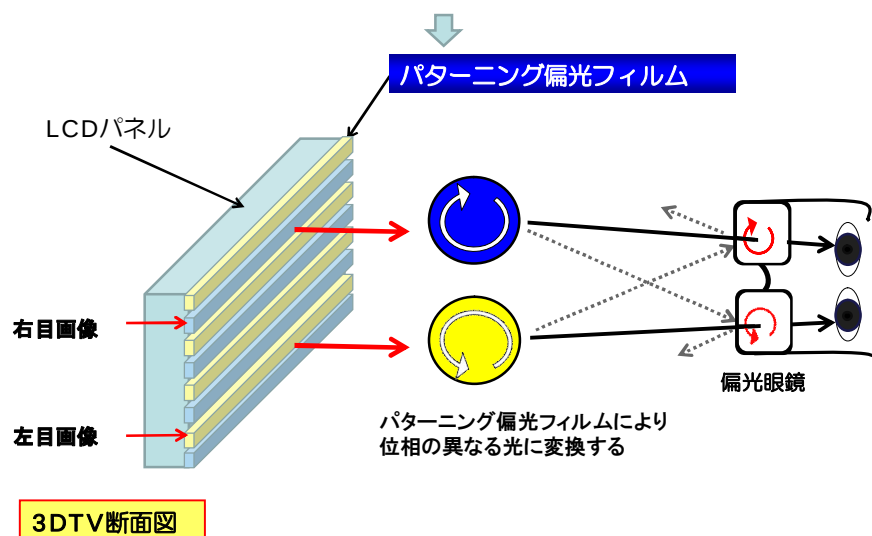
キャッシュ・フロー（連結）

（百万円）

項 目	09/5月	10/5月	備 考
営業活動による キャッシュ・フロー	436	1,870	税金等調整前四半期 純利益
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,118	△1,048	投資有価証券の取得
財務活動による キャッシュ・フロー	244	659	長期借入れによる収入 及び長期借入金の返済 による支出
現金及び現金同等物の 増加額	△437	1,481	
現金及び現金同等物の 期首残高	1,748	2,293	
現金及び現金同等物の 期末残高	1,310	3,774	

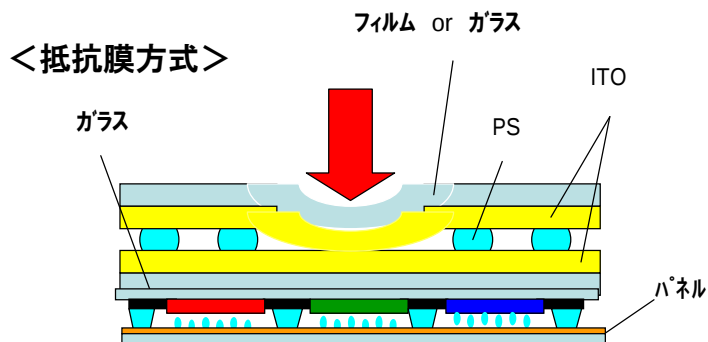
3DTV用偏光フィルム

微細パターニングが可能な光硬化型位相差材料。



タッチパネル用材料

PS(フォトスペーサー)を展開する ～現行技術の応用～



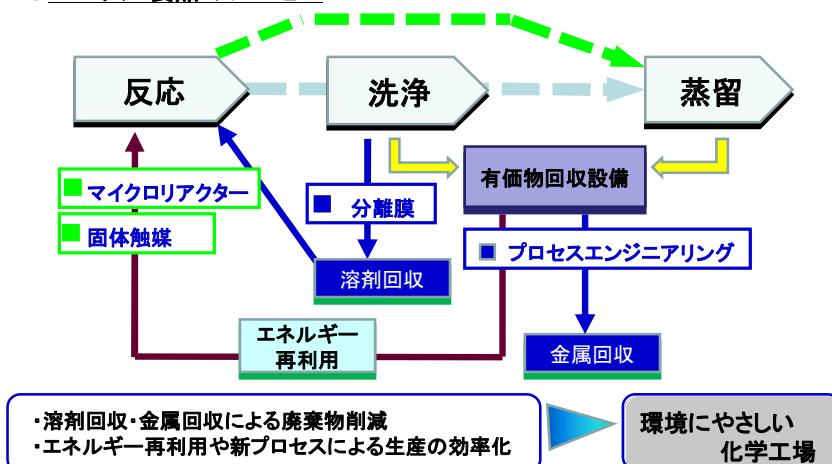
環境対応及び基盤技術

環境対応と基盤技術拡充への強化

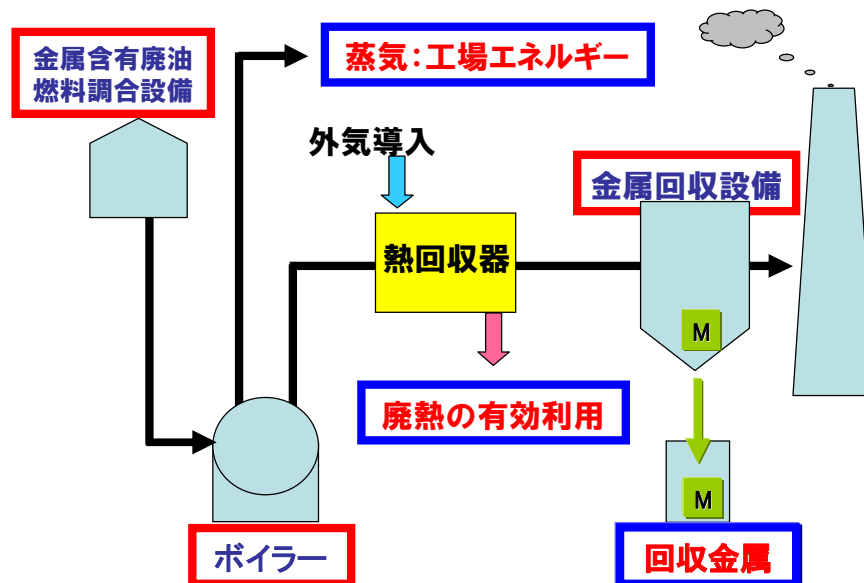
・環境負荷低減技術

・基盤技術拡充

●エステル製品のプロセス



廃油の燃料化設備について



廃油の燃料化設備について

2009年11月より稼動開始

- ・ボイラーとして蒸気の活用
- ・熱の回収利用
- ・有価金属の回収
- ・共同開発による特許化

